

(論文)

使用者の安全配慮義務における「自然災害に対する予見可能性」の
判断基準の課題についてのリスク学の視点からの分析
～七十七銀行事件の判例分析を通じて～

Discussion from risk studies on the issue of setting standards for judging the appropriateness of
management's safety protection obligations in the event of a natural disaster
- Analysis of 77 Bank Case -

平野 琢
Taku Hirano

要旨

東日本大震災以降、自然災害発生時の経営者の従業員に対する安全配慮義務違反を問う訴訟が多数提起された。このような訴訟事例における、災害の予見可能性を判断する基準設定は非常に困難である。そこで、本研究では、既存の判例における災害に対する予見可能性の判断基準を分析し、その問題点をリスク研究の観点から検討した。検討の結果、(1)現行基準では、経営者の災害予知能力の範囲を過大評価する恐れがある。(2) 経営者が現行の基準で行動すると、不確実性リスクへの対応が消極的になってしまう。という2つの課題が示唆された。

キーワード： 安全配慮義務、自然災害、予見可能性、リスク学